

10月のことば 生活の見通し③ ～導線

読書の秋。何にも邪魔されず、ゆったりとした気分で物事を考えるとそこから新たな発見や閃きが生じます。

情緒が安定するためには、「生活の見通し」がなくてはなりません。

生活の見通しをつける為には、

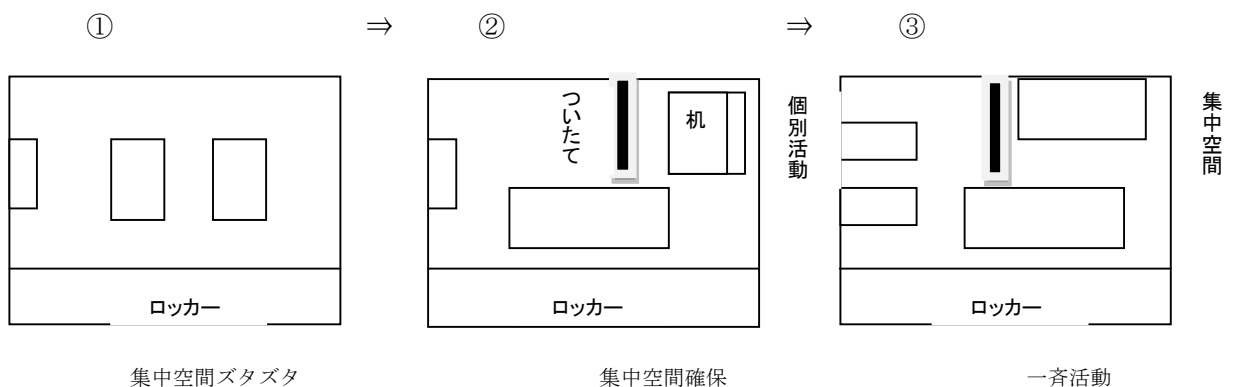
- 1、生活の各場面の時間・場所・位置を定める（8月のことば）
- 2、室内レイアウトを工夫する（9月のことば）
- 3、「導線」を考える（今月）

…ことが必要と思われまます。

人間の生活は目的にしたがって時間ごとに場所を移動しており、「導線」とはこの、人の流れを考えるものです。

これが保育室・家庭で考えられていないと、あらゆる空間が通路となり、せっかく集中しているのに、そこを横切って、結局、どこにいても落ち着きません。それで、実際にぶつかっての喧嘩、集中できないから高度な思考・遊びができず、手っ取り早い“戦いごっこ”“TVゲーム”…となります。

“導線”の考え方の一例



何事も“環境”が大切。集中して思考をめぐらせて読書ができる場合も、それは時間と場所が確保されていて、その状態がいつまで続くのか、「見通し」がついているからです。

秋明^{しゅうめい}。子ども達が生活で見通しのつくようにしてやり、情緒が安定する環境をつくるならば、自然とその能力は、湧き出づると確信するものであります。

「導線」とは

- ・ **導線**

人の流れ方を考える時に使う用語です。人が無駄なく効果的に動けるよう、通路の取り方を考える時に使います。

- ・ **動線**

子どもがどのような動き方をしているかを表す言葉。

「孝」について

- ・ 現在 ～ 「孝」を教えない学校教育。
 - ・ 「孝」は東洋古典のベースとなる考え方。
 - ・ 「孝」は「老」と「子」が合体してできた字。最初はお父さん、お母さんが子どものおしめを替え、お乳をあげて育てた。
それで両親が年を取ったら今度は子どもが親を背負う。その姿を表したものの。
 - ・ 「しんたいはっぶ これ あ きしょう 身体髪膚之を父母に受く。敢えて毀傷せざるは孝の始めなり。身を立てて道を行ない、名を後世に揚げ、以て父母をあらわ 顕すは考の終わりなり」(孝経より)

↓
 - ・ 父母から恵まれた身体を傷つけないことが孝行の第一歩である。一身の独立を保持し、人としての道を行ない、名を後の世まで残し、父母の名を世にあらわ 顕す。
これが親孝行の究極の姿である。
- ※ つまり、社会に役立つ人間になること。

(例えば)

福沢諭吉は、中津藩の大坂蔵屋敷で生まれますが、父親が四歳の時に亡くなり、中津に帰る。そこでいじめられる。立身出世をしようと大坂に出て、緒方洪庵の適塾に入りますが、そこで腸チフスになって死にかけるんです。その時、緒方洪庵が一人の若者のために手厚い看病をしてくれて、「学問は自分のためだけにするのはないんだよ」と諭されたことが、彼の転機になりました。これがなかったら、一万円札になるような人物になっていなかったかもしれません。